

都小社研6年部会 今年度の研究について

6年部会世話人
板橋区立下赤塚小学校 桑島孝博

6年部会の目指す児童像

我が国の政治、歴史、国際社会における役割の確かな理解を基に、社会的事象の意味や特色について多角的に考え、我が国の未来を考えようとする子供の育成

1. 6年部会の目指す児童像

「我が国の政治、歴史、国際社会における役割の確かな理解」とは、用語や語句を覚えることだけでなく、「複数の立場や意見を踏まえて、政治の働きや歴史の展開、国際社会における我が国の役割などを多角的に考える」という活動を通して、我が国の政治の考え方や仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、国際社会における我が国の役割について理解するということである。

学習指導要領解説では、社会的事象の見方・考え方を「(前略) 社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の『視点や方法(考え方)』であり、(後略)」とある。また、社会的態度は「現在及び過去の社会の仕組みのよさ、課題への理解に基づくものであり、学習活動を通して複数の立場や意見を踏まえて考え理解したことを基に涵養される」とある。つまり、「確かな理解」は、よりよい社会を考える際の基となり、子供たちの社会的態度の育成につながるものである。

これらを踏まえ、「社会的事象の意味や特色について多角的に考え、我が国の未来を考えようとする」とは、「確かな理解を基にし、社会的事象の見方・考え方を働かせてその意味や特色について多角的に考えることで、新たな問いを見出し、社会の発展や関わりを考えようとする姿」と6年部会では捉えた。

2. 研究の仮説

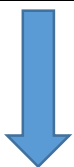
我が国の政治、歴史、国際社会における役割の確かな理解につながる問いや、学習したことを基によりよい社会をつくらうとするための問いをもてるように教材や学習活動を工夫すれば、多角的に考え、我が国の未来を担う国民としての自覚をもとうとする子供が育つであろう。

3. 研究主題を実現するための本実践の主な手立て

(1) 主体的に追究する問いの工夫

○問いの連続性や構造化⇒「単元内における問いの連続性や単元相互における問いの関連性」

学習問題「江戸幕府は、どのようにして260年以上も続く世の中を築くことができたのだろうか」



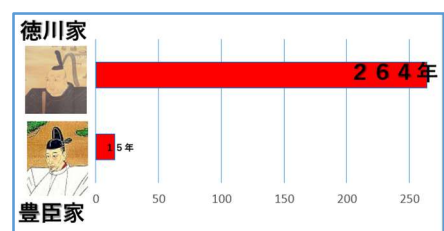
- 問い 江戸幕府は、江戸のまちづくりをどのように行ったのだろうか。
- 問い 江戸幕府は、どのようにして多くの大名を従えていったのだろうか。
- 問い 江戸幕府は、人々に対してどのような政策をとったのだろうか。
- 問い 江戸幕府は、どのように外国と関わったのだろうか。

学習したことを関連付けたり、総合したりして学習問題に対する考えをまとめる。

※問いの主語を、毎時間「江戸幕府は」に揃えることで、「江戸幕府がどのような政治を行い、260年以上も続く世の中を築いたのか」という問題意識を持続させ、追究できるようにする。

○問いが生まれる社会的事象との出会いの工夫

江戸の街の発展の様子、江戸幕府が長期間政治を行ったこと、江戸時代に争いが少なかったことを取り上げることで、江戸幕府がどのような政治を行ったのか問題意識を高める。



(2) 社会的事象の見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

○比較・分類・統合したり総合したり国民（地域）の生活と関連付けて考える学習活動の工夫

比較・・・江戸の街の変化（沼地だった江戸の様子→江戸城図屏風）
政治の期間（豊臣氏の政治の期間→江戸幕府の政治の期間）
争いの数（室町時代頃の争いの数→江戸時代中頃までの争いの数）

分類・・・江戸幕府がどのような政治を行ったか予想し、予想した内容を分類して学習計画をたてる。
学習問題について予想する場面では、政治の仕方を「町作り」「大名へのきまり」「民へのきまり」「外交」といった視点で分類し、学習計画をたてる。

関連・・・武士による政治が安定したことを捉えるために、江戸幕府が行った大名や人々に対する政策や外交政策を関連付けて考え、図にまとめ、学習問題に対する考えをまとめる。

○対話を通して多角的に考える学習活動の工夫

調べる過程では、毎時間、江戸幕府の政策の意図を考え、話し合うことで、それぞれの政策が江戸幕府や大名、百姓などの立場にどのような影響を与えたのか考えられるようにする。

(3) 子供の学びを確かにする評価の工夫

○学習の見通しと振り返りの工夫

・ノートやワークシートの書かせ方、見取る場面の設定

学習の仕方について「つかむ、調べる、まとめる」の3つの過程でそれぞれ振り返りの場面を設定する。
学習内容を振り返るために、調べる過程では毎時間、学習内容が学習問題の解決にどのように繋がっているか振り返る。

(4) 教材開発や教材分析の視点

○時間的・空間的・相互関係的な視点から視野を広げる教材開発

・現在の自分たちの生活する東京につながる歴史的事象の働き
江戸の町作りの様子を教材化し、「江戸幕府が、大名に仕事を負担させ、江戸の町の発展の基礎を築いたこと」を捉えられるようにする。また、「当時の江戸の町作りが現在の東京の基になっていること」にも触れ、当時の町作りと現在の自分たちの生活と繋がりにも関心をもてるようにする。



1590 年ごろ



江戸時代



現在

4. 協議で取り上げてほしい視点

・東京らしさを感じる教材として「江戸の町作り」を取り上げたことは有効だったか。

研究構想図

【これまでの研究の成果 (○) と課題 (●)】

- 意見文、思考ツールなどを活用した表現活動の工夫
- 育てたい子供の姿の明確化
- 見通しや振り返りを大切にしている授業づくり
- 自分と社会のつながりや、人の姿が見える教材開発
- 政治学習を生かした歴史学習
- 学習調整を行う場面の設定
- 子供の反応分析を活用した学習評価の方法

【6年社会科の課題 (◆) と方向性 (◇)】

- ◆限られた時間数での目標の実現や内容の充実
- ◆子供が問い続けるための資料提示や調べる時間の学習活動の充実
- ◇子供主体の問題解決的な学習を保障する授業づくり
- ◇子供が学習の内容をどのように生活に生かそうとしているかという見取り
- ◇見通しと振り返りの充実

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～

目指す子供像

我が国の政治、歴史、国際社会における役割の確かな理解を基に、社会的事象の意味や特色について多角的に考え、我が国の未来を考えようとする子供の育成

研究の仮説

我が国の政治、歴史、国際社会における役割の確かな理解につながる問いや、学習したことを基によりよい社会をつくろうとする問いをもてるように教材や学習活動を工夫すれば、多角的に考え、我が国の未来を担う国民としての自覚をもとうとする子供が育つであろう。

研究の内容

主体的に追究する問いの工夫	見方・考え方を働かせる学習活動の工夫	子供の学びを確かにする評価の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○子供が問いをもち追究意欲を高める工夫 ・つかむ段階の資料の工夫 ○問いの分類と連続性や構造化 ・単元内、単元相互における問いの関連性の工夫 ・議論を通して考えを深める問いの設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○比較・分類・統合したり総合したりして、国民(地域)の生活と関連付けて考える学習活動の工夫 ○対話を通して多角的に考える学習活動の工夫 ・社会における対立や矛盾、葛藤を感じる場の設定 ・多様な価値について立場を決めて話し合う場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しと振り返り(集団的学習調整)の工夫 ・ノートやワークシートの書かせ方、見取る場面の設定 ・既習を生かして新しい問いを見出す場面の設定
教材開発や教材分析の視点		
<ul style="list-style-type: none"> ○時間的・空間的・相互関係的な視点から視野を広げる教材開発 ・現在の社会につながる歴史的人物の働き ・安定した社会づくりに関わる仕組み ○社会の課題を把握し、発展や関わり方を考えることにつながるような教材の工夫 ・多様な価値が見出せる教材 		

